# RHELのサブスクリプション管理

2020-09

## この資料の位置づけ

• ほとんどのLinux技術者にとっておそらく最もなじみがない RHEL特有の要素である、サブスクリプション管理に関連する 技術や概念について、概要と資料を紹介します

### 目次

- なぜサブスクリプションを管理するの?
- サブスクリプション管理のしくみ
  - キーワード
  - 典型的な利用例
  - subscription-manager
  - virt-who
  - アクティベーションキー
  - auto-attachとは?
  - エラータの通知
  - 登録したシステムやサブスクリプションの管理
- 関連ドキュメント

## なぜサブスクリプションを管理するの?

- RHEL購入時に交わされる契約であるEnterprise Agreementでは、サービスレベル、ソフトウェア種別、ハードウェアアーキテクチャ、システムの用途(ユースケース)、システム数、vCPU数、物理サーバのソケット数などをルールに従って数え、サブスクリプションを購入する必要があります。
  - 所有しているサブスクリプション以上のシステムを構築したり増設したりすると、**契約違反 になってしまいます**。契約違反を予防するため、サブスクリプション契約とシステムの対応 づけをおこない管理する仕組みが実装されています。
- 資産管理や契約管理の一環として、どのサブスクリプションとシステムが対応するか を管理する必要がある場合も有用です。

サブスクリプションの数や種類については「Red Hat Enterprise Linux サブスクリプションガイド」をご確認ください

https://www.redhat.com/ja/resources/red-hat-enterprise-linux-subscription-guide

## サブスクリプション管理のしくみ

- サブスクリプション管理のしくみは、Red Hatのコンテンツ配布の仕組みと連携しています。システムヘサブスクリプションを紐付けることで、yumでのパッケージ取得が有効になります。
  - Red Hat サブスクリプション管理ドキュメント https://access.redhat.com/documentation/ja-jp/red\_hat\_subscription\_management/1/
- サブスクリプション管理のしくみを利用することは必須ではありません。
  - 諸事情でサブスクリプション管理のしくみを利用しない場合、単に関連するソフトウェアの起動を**停止したり、アンインストールすることが可能です**。その場合rpmパッケージを別途ダウンロードするなどの工夫が必要です。
  - サブスクリプション管理の利用有無によらず、システムの数や構成に従い、必要な購入数が決まります。サブスクリプション管理を利用しない場合には、必要なサブスクリプション数を別途管理する必要があります。

### サブスクリプション管理のキーワード

- Red Hat Customer Portal側
  - Red Hat Subscription Management: コントラクト,サブスクリプション,システムの管理 などを管理します
     https://access.redhat.com/management/
  - Red Hat CDN: rpmパッケージを配布します。cdn.redhat.com
- ・ お客様環境側
  - 関連プログラム: subscription-manager, rhsmcertd, virt-who
  - 関連製品: Red Hat Satellite Server

### 典型的な利用例

製品ダウンロード・導入

システム登録

サブスクリプション紐づけ

リポジトリの有効・無効化

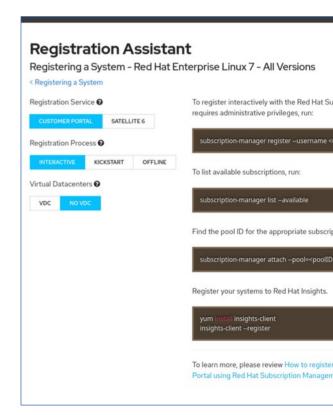
# 製品ダウンロード・導入

- RHEL 8.2から、OSのインストーラ内 "Connect to Red Hat" からシステムの登録と、Red Hat Insightsへの登録を行えるようになりました。
  - 比較的小さいISOイメージ boot.iso と、Red Hat CDNから必要なパッケージだけをダウンロードしてインストールを行えます
- 過去のバージョンでは、インストール完了後にシステムの登 録をおこないます

# システム登録

- RHEL7までは root で subscription-manager register を実行します
  - ゲストOS数無制限のサブスクリプション(virtual datacenter)では別途virt-whoによるハイパーバイザとの対応づけが必要
- RHEL 8やSatelliteの利用、オフライン環境での登録時は、カスタマーポータルのRegistration
   Assistantで環境を指定すると手順が表示されます

https://access.redhat.com/labs/registrationassistant/



# サブスクリプション紐づけ

- root で subscription-manager attach --auto を実行すると、導入されている製品を含む利用可能なサブスクリプションと対応づけられる
- 対応するサブスクリプションが複数種類あるなど複雑な場合、コマンドラインではサブスクリプションに対応するpool IDを指定する。(製品が多いと煩雑になりがちなので後述のアクティベーションキーを利用すると便利。)
- カスタマーポータルのWeb UIからサブスクリプションのア タッチを実施できるため複数製品を扱う場合こちらが便利
  - https://access.redhat.com/management/systems/



# リポジトリの有効・無効化

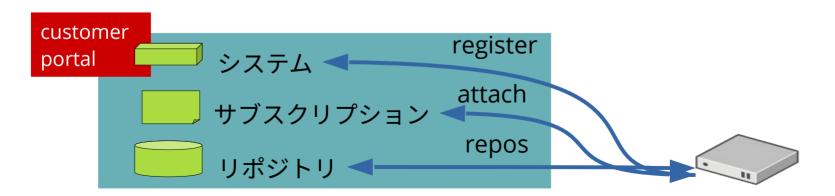
- RHELでは複数のyumリポジトリが提供されている
  - バイナリrpm以外の、debuginfoやsourceなどのリポジトリ
  - アドオン製品、サポートされないが利便性のため提供されるoptionalおよびsupplementaly、Red Hat SatelliteやRed Hat Storage利用時のみ必要なリポジトリ、Ansible、EUS, ELS
  - beta版など
- subscription-managerでは製品で利用できるリポジトリ群のうち、どのリポジトリを有効・ 無効とするか指定する
  - 例: subscription-manager repos --enable=rhel-7-server-eus-rpms

ナレッジ「Red Hat Subscription Manager (RHSM) を使用してリポジトリを有効にする方法」 https://access.redhat.com/ja/solutions/649723

# subscription-manager

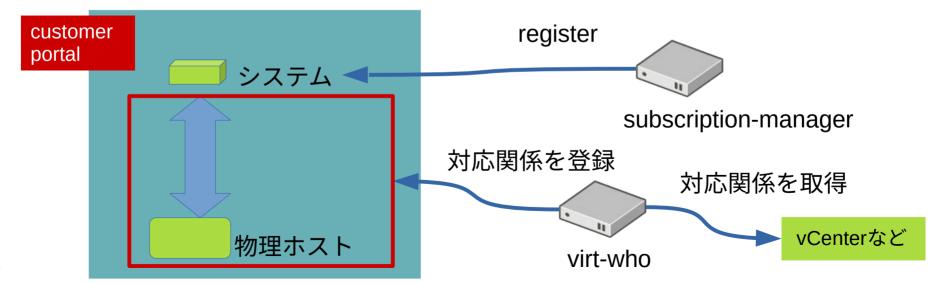
subscription-managerはシステム、サブスクリプション、リポジトリの登録・対応づけを管理するコマンド。

# subscription-manager register →システムを登録 # subscription-manager attach →システムにサブスクリプションを対応づけ # subscription-manager repos → リポジトリの利用有無を設定



#### virt-who

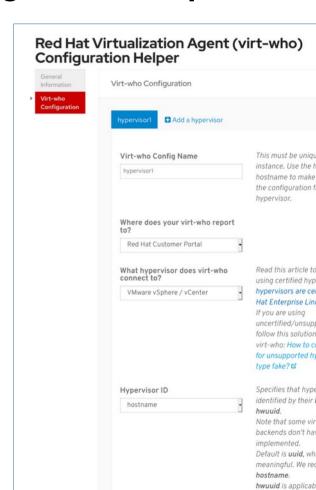
- サブスクリプションの中には、特定の物理ホスト上であれば仮想マシンを台数 無制限に構築してよいもの(Virtual Datacenterなど)があります
- virt-whoはゲストOSとしての各RHELと、物理ホストの対応関係を追跡します。



#### Red Hat Virtualization Agent (virt-who) Configuration Helper

virt-whoの設定ファイルをウィザード形式の 入力で生成するツールを提供しています

https://access.redhat.com/labs/virtwhoconfig/



### アクティベーションキー

- システムの登録、サブスクリプションの紐づけ、サービスレベル の指定をまとめて行うためのキーワードを作成できます
  - リポジトリの指定は別途行う必要があります
- 組織IDとアクティベーションキーだけで、Red Hatのログイン情報を使わずに登録作業をおこなえるため権限分離にも有用です

利用方法はナレッジ「Red Hat カスタマーポータルのアクティベーションキーを作成する」

https://access.redhat.com/ja/articles/3040881

#### auto-attach とは?

- ドキュメントを読んでいると、動作がよくわからない用語「autoattach(自動アタッチ)」がでてきます
- auto-attachは、システムに対応づけたサブスクリプションが無いまたは 有効期限が切れる場合に、自動的に利用可能で製品に適合するサブスク リプションをシステムに紐づける仕組みです
  - サブスクリプションが失効してしまうケースを予防します
  - 場合により期待と異なるサブスクリプションが紐づけられる場合があります
  - auto-attachを使いたくない場合にはシステム毎に無効化できます

#### エラータの通知を取得する

- サブスクリプションを登録した製品にソフト ウェアの修正が出荷された場合に、メールで通 知を受けとることができます
- ログイン後errata notificationsを設定します https://www.redhat.com/wapps/ugc/protected/notif.html
- 「Red Hat Subscription Management (RHSM)
  からエラータの警告や通知を取得する」
  https://access.redhat.com/ja/solutions/382673



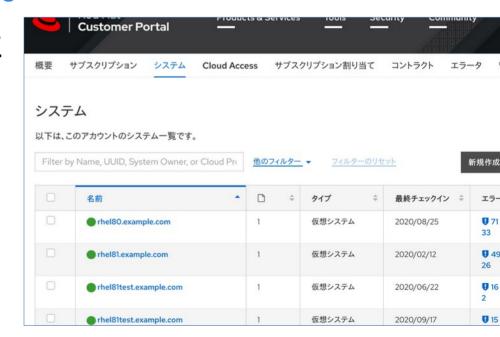
Errata notifications Your information Red Hat customers can receive er Personal known as errata. Errata notificatio Change password After making your choices, you Postal address Your preferences Language & location **RED HAT SUBSCRIPTION MAN** Errata notifications Notification control Errata notification emails are disa O Enable notifications for the sel Security updates Bug Fix Enhancement Disable all errata notifications Notify me when Errata affects systems on my a Receive a notification when a p errata. More Info Errata affects my subscriptions Receive notification when a sul **Notification frequency**  Immediate Daily summary Weekly summary

Cancel

SAVE

### 登録したシステムやサブスクリプションの管理

- システムやサブスクリプションを管理します
  - https://access.redhat.com/management/
- 登録したシステムはで4時間毎に チェックインを行います
- 各システムのエラータ数や その内容も確認できます



# 関連ドキュメント(1/2)

- ナレッジ「Red Hat Subscription Management の使用を開始する」
   RHSMで登場する概念や、実装で利用される証明書まで含めた詳しい紹介です
   https://access.redhat.com/ja/articles/3221791
- Red Hat Subscription Managementドキュメント
  - RHEL の簡易登録: 基本的・典型的な登録方法
  - **Red Hat Subscription Management の使用および設定**: RHSM全般
  - Red Hat Subscription Management での仮想マシンサブスクリプションの設定: 仮想マシンの登録とvirt-whoの設定

https://access.redhat.com/documentation/en-us/red\_hat\_subscription\_management/1/

# 関連ドキュメント(2/2)

- Red Hat Enterprise Linux ドキュメントのInstallingカテゴリ https://access.redhat.com/documentation/ja-jp/red\_hat\_enterprise\_linux/8/
  - **標準的なRHELインストールの実行**: インストールメディアの作成、インストーラでの各種指定、Subscription Managerによるシステムの登録とサブスクリプション割り当て、トラブルシュート
  - **RHEL システムイメージのカスタマイズ**: 各種仮想化環境および パブリッククラウドむけ仮想マシンイメージの作成方法

#### まとめ

- なぜサブスクリプションを管理するの?
- サブスクリプション管理のしくみ
  - キーワード
  - 典型的な利用例
  - subscription-manager
  - virt-who
  - アクティベーションキー
  - auto-attachとは?
  - エラータの通知
  - 登録したシステムやサブスクリプションの管理
- 関連ドキュメント